

グリオスタチンの関節リウマチにおける役割とその発現機序の解明

講師：川口 洋平 助教

名古屋市立大学 大学院医学研究科 整形外科
 脳神経科学研究所 グリア細胞生物学



日時：2022年1月13日（木）17:00～

場所：名古屋市立大学桜山キャンパス
 医学部研究棟11階 講義室B

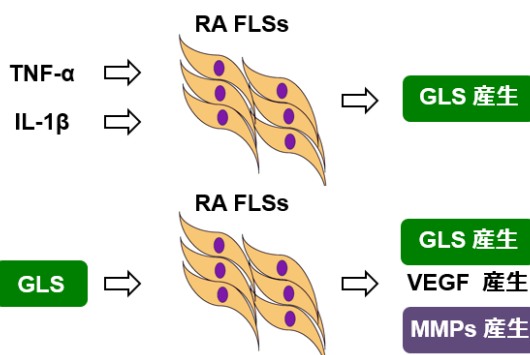
本セミナーはZOOMによるオンライン配信も致します。オンラインでの参加は下記URL又はQRコードからログインしてください。

URL：<https://us02web.zoom.us/j/82948440807>



生物学的製剤の開発により関節リウマチ（RA）は、臨床的寛解が得られるようになった。しかし薬剤不応性により関節破壊が進行する患者が依然として多く存在する。我々の研究グループではRA患者由来の線維芽細胞様滑膜細胞（RA-FLSs）を用いた研究で、関節破壊にグリオスタチン（GLS）が深く関与することを報告してきた。治療抵抗性の患者では血清グリオスタチン濃度が高値であり、このグリオスタチン産生を抑制することはRA治療の有効な手段となると考えている。

Gliostatin (GLS) と 関節リウマチ (RA)



近年ヤヌスキナーゼ（JAK）阻害剤によるRA治療が始まっており、その有効性は生物学的製剤に匹敵する。JAK阻害剤によるグリオスタチン抑制作用を提示し、その発現機序を探索する。

世話人：山川和弘（医学研究科・神経発達症遺伝学分野）

TEL: 052-851-5612, E-mail: yamakawa@med.nagoya-cu.ac.jp